

アクションプラン(平成25年度版)

N'2020Plan の 課題			アクションプラン(H29年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
<b>I. 建学の精神と二松学舎憲章</b>											
1. 建学の精神	(1) 建学の精神とその現代的解釈の浸透	a. 建学の精神とその現代的解釈の学内外への浸透策の検討・実施	◎五十嵐常任理事 渡辺学長 松葉校長 木村校長 野田常任理事 谷口図書館長	総務・人事課 ◎広報課 ◎教務課 入試課 図書館 高校事務室	広報運営委員会	教職員、学生・生徒が本学建学の精神を理解し、帰属意識(母校愛)を持っている。	・計画的に浸透策を実施 ・掲示板設置 ・二松学舎小史改訂 ・学内印刷物への掲載 ・大学資料展示室・図書館で企画展等	・継続実施 ・中高生、一般向けの二松学舎史刊行を検討	・継続実施	・継続実施	・継続実施
	(2) 創立者の知名度向上	a. 創立者三島中洲の知名度向上	◎五十嵐常任理事 小町理事	広報課	広報運営委員会	創立者三島中洲師の知名度が、本学関係者以外にも広く伝わり、社会的な評価を得ている。	・九段1号館の創立者胸像に解説を敷設 ・九段1号館以外への設置についても検討	・各種メディアを活用した知名度アップの方策を検討 ・具体案の一部実施	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
2. 二松学舎憲章	(1) 二松学舎憲章の浸透	a. 二松学舎憲章の学内外への浸透策の検討・実施	◎五十嵐常任理事 野田常任理事 吉崎副学長	総務・人事課 ◎広報課 ◎学務課	広報運営委員会	「二松学舎憲章」が全てのステークホルダーに周知され、その理念の浸透が図られている。	・周知活動方法についての検討 ・周知活動の具体策策定	・計画の一部実施	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
3. 二松学舎史編纂事業と周年事業	(1) 編纂事業の推進と周年事業計画	a. 創立140周年記念事業	小町理事	◎総務・人事課 ◎企画・財務課 広報課		創立140周年(H29)事業が成功裏に達成されている。		・記念事業準備委員会の設置			・創立140周年
		b. 創立150周年を視野に入れた舎史編纂事業の推進	◎五十嵐常任理事 谷口図書館長	◎広報課 図書館	広報運営委員会	創立140周年(H29)での編纂事業の大綱発表を受け、舎史編纂所(仮称)が設置され、編纂事業がスタートしている。	・舎史編纂のためのWG設置 ・編纂事業に係る調査、検討。舎史資料収集のための広報等実施	・調査、資料収集の継続	・調査、資料収集の継続	・舎史編纂計画大綱(案)の作成	・舎史編纂所(仮称)の設置 ・舎史編纂計画大綱の発表
<b>II. 大学・高校・中学の教育改革(共通)</b>											
1. 各設置学校間の連携強化	(1) 中高一貫校化の体制整備	a. 中高大の連携強化 b. 高大連携の実質化 c. 両附属高で優秀な生徒の二松学舎大学への進学推奨 d. 大学で両附属高からの優秀な学生受け入れ e. 附属中・高を学生の教員養成実践の場として活用(学生による日常的な授業サポート等の実施)	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 松葉校長 木村校長 野田常任理事	総務・人事課 企画・財務課 学務課 入試課 ◎教務課 ◎附属高校 ◎柏中高	全学政策会議 附属高校改革 検討会議 校長室会議	学生・生徒募集に係る連携だけでなく、教育課程についても連携が図られ、中高大10年間の教育によって、長期ビジョンに掲げる人材を輩出している。	・附属柏中高の連携策策定 ・高大連携策の見直し、改善	・大学授業の高校生履修一部実施 ・柏中高と大学との連携方法検討 ・両附属高校による教育実習生受入拡充検討 ・両附属高校からの進学者受入方法の検討	・高大連携と結び付けた優秀な生徒の受入実施 ・学習ボランティア学生の派遣	・学習ボランティア学生派遣の拡充	
	(2) 施設・設備の共同利用	a. (九段キャンパス)大学施設の一部を附属高と共同利用 b. (柏キャンパス)大学の教室・施設を附属高・附属柏中高での授業や運動でも利用	◎野田常任理事 渡辺学長 松葉校長 木村校長	◎総務・人事課 柏事務課 ◎高校事務室	全学政策会議 附属高校改革 検討会議 校長室会議	各設置学校間での施設・設備の共同利用に係るルールが策定され、効率的な利用が実現されている。	・附属柏高校の大学教室施設利用検討、実施	・継続実施 ・柏キャンパス共同利用ルールの策定			
<b>III. 二松学舎大学・大学院の教育改革</b>											
1. 大学(学部・大学院)のフレーム	(1) 大学・大学院の理念・目標・ビジョンの浸透	a. 大学・大学院の理念・目標・ビジョンの学内外への浸透策の検討・実施 b. ビジョンに基づく学生育成策の検討・実施	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長	◎学務課 教務課 学生支援課		建学の精神を反映したカリキュラムにより、大学・大学院のビジョンに掲げる人材が輩出されている。	・理念・目標の再確認、推敲・統一 ・理念・目標の浸透方策検討	・理念を勘案したカリキュラムの改正検討(自校教育等)	・浸透方策に基づく周知	・継続実施	・継続実施
	(2) 規模拡大への取り組み	a. 新学部等の設置	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 野田常任理事			新学部等を設置し、学生を確保している。	・新学部等の設置について検討 ・新学部等の候補案策定 ・新学部等候補分野のマーケティング調査実施	・マーケティング調査結果に基づく検討 ・新学部等設置の可否判断 ・申請、学生募集等準備	・申請及び届出 ・学生募集実施	・新学部開設 ・第二期学生募集	・新学部2年目
		b. 文学部の改革	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 江藤学部長 野田常任理事	◎学務課 ◎企画・財務課	理事会 常任理事会 全学政策会議 大学協議会 部局長会議 教授会	文学部が学生を確保し、十分な教育水準を維持している。	・中国文学科の定員減員後の対応等について検討 ・学部改革の検討 ・中国文学科及び新学部の具体的内容について検討(秋セメ)	・申請等準備(詳細検討、人事計画等)	・申請及び届出	・新学科開設	
	c. 国際政治経済学部の改組検討	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 菅原学部長 野田常任理事			国際政治経済学部の教育研究水準が向上している。	・新カリキュラム(専攻制等)の効果検証	・効果検証、確認	・複数学科へ移行の可否判断			

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H29年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020 (H32) 年度の姿】 目標数値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
		d. 国際政治経済学研究科の充実	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 菅原研究科長	◎学務課 入試課 教務課		修士課程収容定員を充足している。	・新カリキュラム検討 (2専攻又はプログラム制) ・学生募集対策の具体策 策定	・新カリキュラムの実施	・新カリキュラム完成年度	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
		e. 「在籍学生5,000人規模総合大学」へ向けた 取り組み	◎渡辺学長 野田常任理事	学務課		上記「a」「b」「c」の状況等を見ながら、適宜 検討					
2. 大学のマネジメント(管理運営)											
◆ 教学マネジメント体制の充実・強化											
	A. カリキュラムの体系化(カリキュラムマップ、ナンバリングの導入等)	・カリキュラムマップの作成 ・ナンバリング制度の導入 ・その他	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長		教務委員会 教授会	学生の主体的な学びに寄与するカリキュラ ムが整備され、国内外他大学との単位互 換が容易となる制度が整備されている。	・カリキュラムマップの試作 ・開講科目の難易度等 確認 ・開講科目へのナンバー 付与開始	・ナンバリング制度の 充実、改善	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
	B. シラバスの充実・強化	・シラバス記載内容の見直し ・ルーブリック(評価基準)の確立 ・その他	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長		教務委員会 教授会	シラバスの記載内容が統一・整備され、当 該科目の履修により修得できる知識・技能 が明示され、学生の主体的学習計画策定 の一助となっている。	・シラバス記載マニュアル 等の見直し ・成績評価基準の明確化 検討	・新シラバスの導入	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
	C. 教育方法の改善・改革	・組織的FD活動の体系化と教科指導力の強化 ・授業方法改善 ・ICTの活用と学内ネットワークの見直し(無線LANの導入検討) ・CAP制度(年間履修上限単位制度)の全学的な導入 ・アクティブラーニングの推進 ・GPA制度の活用方法の検討 ・学修到達度調査・学修行動調査の導入 ・TA、SAの活用 ・図書館、ラーニングコモンズ等の施設機能充実 ・その他	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 野田常任理事 森野センター長 千葉理事		◎教務課 学務課 情報センター	PBL(Project Based Learning)、アクティブラ ーニングなどの新しい教授方法が導入され、一 方向的な指導から、双方向の指導へと転 換している。また、学内ネットワークの見直 しに伴う無線LANネットワーク等が整備さ れ、ICTを活用した新たな授業が展開して いる。CAP制度・GPA・学修到達度調査・学 修行動調査の活用と、TA・SAの活用、施 設機能の充実等により、学生が主体的に 学習できる環境が整備され、「学士力」が 高まっている。	・組織的FD活動の具体案 検討、一部実施 ・教育方法に係る学内 研修会実施の検討、外部 講師の招聘等検討 ・初年次教育の見直しに よる基礎学力向上策の 検討 ・T.A.制度の見直し、活用 策の検討 ・ボランティア活動の 単位化検討 ・ローカル無線LANの 実験導入。	・組織的FD活動の本格的 導入開始 ・学部教育における基礎 学力向上プログラム等 の導入 ・効果検証、見直し ・ボランティア活動の 単位化実施 ・ICT活用授業導入の 検討(FD)、一部実施。 ・ローカル無線LANの 一部導入。	・効果検証、見直し ・ローカル無線LANの 一部導入。	・効果検証、見直し ・全学的無線LANネット ワークの導入を目指した 検討の着手。	・効果検証、見直し ・全学的無線LANネット ワークの導入に向けた、 具体案の策定。
	D. 組織的な連携	・大学院、学部間の連携 ・学部間の連携 ・他校(附属中学校、両附属高等学校)との連携	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長			各設置学校長間の連携・協力体制が確立 し、有機的かつ効率的な教育サービスが 学生・生徒等に提供されている。	・大学院、学部間の連携 方策検討 ・学部間の連携方策検討 ・高大連携内容の再確認	・大学院、学部間の連携 方策検討 ・学部間の連携方策検討 ・高大連携内容の再確認	・大学院、学部間の連携 カリキュラム検討 ・学部間連携カリキュラ ム検討 ・各学校長等による協議	・大学内各組織の連携 開始 ・中高大連携具体策の 検討	
	(1)教育方針の明確化	a. 大学全体の教育課程編成・実施方針、 学位授与方針の明確化	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長		学務課	カリキュラム、ディプロマポリシーが確立さ れ、育成する能力・知識・技術と授業科目 の内容との関連性が明示されている。	・現行カリキュラムポリシ ーの見直し ・現行ディプロマポリシ ーの見直し	・新カリキュラムポリシ ーの策定・公表 ・新ディプロマポリシ ーの策定・公表			
	(2)学位論文審査 基準の明確化	a. 学位論文審査基準の策定	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長			客観性、厳格性が確保されたディプロマポ リシーが定められ、基準に則り学位が授与 されている。	・現行ディプロマ ポリシーの見直し ・学位論文審査基準の 見直し	・新ディプロマポリシ ーの策定・公表 ・学位論文審査基準の 策定			
	(3)教育研究情報の 集約、教育研究 成果の検証	a. 教育課程の適切性等検証体制の整備・効果的な運営 b. シラバスと授業との整合性検証体制の整備 c. IR(Institutional Research)機能の充実 ・教育成果検証体制整備、教育研究成果の一元管理	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長		◎学務課 ◎教務課	学内外への教育研究成果の公表、シラバ ス掲載内容の適合性に係る検証体制が構 築され、ステークホルダーに情報提供され ている。	・カリキュラムの適切性、 シラバスと授業の整合性 等の検証方策検討 ・教育研究成果の情報 集約方策検討	・カリキュラムの適切性、 シラバスと授業の整合性 等の検証方策検討 ・教育研究成果の情報 集約方策検討	・適切性・整合性の検証 ・情報収集、公表	・検証結果による改善	
	(4)教員組織の整備	a. 学長の権限強化 b. 大学協議会・教授会等の機能権限の明確化 c. 学部長の職務権限の明確化 d. 専任教員の充実(著名教員の招聘等)	◎渡辺学長 野田常任理事 五十嵐常任理事		総務・人事課 ◎学務課	学長、学部長等の役職教員、会議体の権 限が規程化され、学長のリーダーシップに よるガバナンスが機能している。	・役職教員の権限の確 認、 見直し ・会議種別による権限の 確認、見直し	・管理運営に関する規程 の改正 ・関連新規規程の制定 ・新学部設置等に合せた 著名教員の招聘検討	・新規規程の施行 ・関連新規規程の施行 ・著名教員の招聘検討		
3. 大学の 教育改革	(1)二松学舎への 愛校心(帰属意 識)高揚教育	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時の教えを教授 c. 著名な本学関係者・卒業生の功績等を教授 d. 自校教育等のための共通テキスト導入	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 野田常任理事 五十嵐常任理事		教務課	創作活動に対する支援、本学独自の出版 活動等を通じ、関係者の帰属意識が高 まっている。	・『二松短歌』、『二松俳 句』の再編検討 ・『文学散歩』(北関東篇) の刊行 ・自校教育等のための 共通テキスト制作検討	・「二松学舎大学文芸賞」 の創設検討 ・『文学散歩』(九州篇) の刊行 ・共通テキストの製作	・創作コンクールの実施 ・『文学散歩』(中部篇) の刊行 ・共通テキストの基礎 ゼミへの導入	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H29年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
	(2)学生ニーズへの 対応	a. 学生による授業アンケートの分析、授業改善・ 学校運営へのフィードバック	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長	学務課		授業アンケート、満足度調査等の結果が教育 改革、環境整備に機動的に反映され、 SS値(Student Satisfaction)が高まっている。 授業アンケート等の評価結果がFDに反映 されている。	・授業アンケートの実施 ・学生満足度調査の実施 ・アンケート結果の反映 方法検討 ・授業アンケートの評価が 高い教員への顕彰実施	・授業アンケートの実施 ・アンケート結果の反映	・授業アンケートの実施 ・アンケート結果の反映	・授業アンケートの実施 ・アンケート結果の反映	・授業アンケートの実施 ・アンケート結果の反映
	(3)国際化への対応										
	①国際化教育・ 留学支援	a. 東アジアほかの大学との連携 b. 留学生の受入れと送り出し・双方向交流の ための環境整備	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 渡邊理事 武永センター長 神河学務局次長	◎教務課 学生支援課	国際交流委員会 教務委員会等	日本に根ざした道徳心と「国語力」を基礎と して、英語・中国語・韓国語などの外国語 の実用的スキルを身に付けた学生が、海 外留学や学内での留学生との交流を通じ て、国際的視野と異文化理解力を涵養して いる。 様々な国からの留学生を受け入れ、国際 交流が活発化している。	・海外協定校の拡充検討 ・少人数クラスによる語学 教育の実施体制検討 (全学的) ・海外大学とのダブル ディグリー制度の検討 ・国際交流センターに よる学内での異文化 理解イベントの実施検討 ・本学学生への海外留学 情報提供方法の充実 策検討 ・東アジアの文化と社会 プログラム充実策の検討	・海外大学とのダブル ディグリー制度導入交渉 開始 ・全学的な外国語強化策 の導入・実施 ・地域研究科目による 国際理解の推進 ・学内の留学生受入 体制の整備 ・その他	・効果検証、見直し ・学内の留学生受入 体制の整備	・効果検証、見直し ・学内の留学生受入 体制整備と更なる充実	・効果検証、見直し ・学内の留学生受入 体制整備と更なる充実
	②語学教育	a. 語学教育の少人数化実施 b. 英語・中国語・韓国語等教育の強化									
	③国際人としての 教養教育	a. 日本・中国等東アジアの文学・歴史・文化、 政治・経済等知識の教授 b. 国際環境の変化に対応できる知識・情報等の提供 c. 東洋の精神に基づく道徳心の涵養									
	(4)キャリア教育・就職対策	a. 入学時からの体系的キャリア教育確立 b. 就職率アップ c. 各種資格取得の奨励、資格取得講座等受講者の増 d. 実践的な知識技能の習得方策の検討 e. 地方公務員試験・国家公務員試験合格者の増 f. 司書・学芸員採用者の増 g. 就職先の開拓・拡大 h. キャリアカウンセラーの増員 i. インターンシップ先の開拓、インターンシップ機会の増	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 田端センター長 神河学務局次長	就職支援課	キャリア センター 会議	東アジア文化・語学等を理解した本学の卒 業生が、国内だけでなく世界の各界で活 躍している。 H29年度 就職率(一般企業):95.0% H29年度 公務員試験合格者:23名 H29年度 就職特別講座受講者:230名 H29年度 インターンシップ参加者:80名 H29年度 3年生への就職希望調査(個人 面談率):100%	・キャリア教育、就職対策 教育、リメディアル教育 の連携、役割分担の 再検討 ・公務員(行政職)就職 実績引上対策の検討 ・現行各種対策講座の 見直し、充実策の検討 ・採用実績達成目標の 検討、設定	・公務員就職希望者への 新対策の実施 ・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	
	(5)教員養成教育の強化	a. 教員採用試験合格者の大幅増 b. 国語・書道・外国語(中国語)教員養成の強化 c. 社会科教員養成への注力 d. 古文や漢文の実力持つ教員養成 e. 新たな教員免許制度に備えた対応	◎渡辺学長 山崎副学長 吉崎センター長 神河学務局次長	教職支援 センター		毎年度、一定数の教員採用実績があり、 「専門性の高い教員＝二松舎大学卒教 員」というブランドが構築されている。 H29年度 専任教員採用者数:15名 H29年度 書道教員採用者数:3名 H29年度 中国語教員採用者数:3名 H29年度 社会科教員採用者数:3名 H29年度 教員採用模試平均得点:54点	・教員免許状に係る 新施策の調査・検討 ・教職支援センターと 教職課程の在り方の 見直しと連携強化策 の検討 ・社会化教員志望学生 への支援体制充実策 の検討 ・その他	・学部、大学院、教職課 程、教職支援センター の連携による教育の実施 ・教職支援センターと教職 課程の連携強化策の 実施 ・教科教育充実策の 検討、実施 ・その他	・各施策の効果検証、 見直し	・各施策の効果検証、 見直し	・各施策の効果検証、 見直し
	(6)父母会・卒業生 との連携	a. 父母会との連携強化、意見を学校運営に 反映する仕組み検討 b. 卒業生ネットワーク整備 c. 松令会との連携強化	◎渡辺学長 山崎学務局長 神河学務局次長	◎学生支援課 学務課		父母会組織が強化され、大学と密接に連 携し、効果的に各種事業を実施している。 松令会との連携が強化され、志願者の増、 学生の就職活動上の支援体制の充実に結 びついている。	・地区別父母懇談会の 充実策検討 ・父母会奨学制度の 見直し検討 ・松令会との連携内容、 方法の見直し	・開催方法の検証、改善 ・新制度の導入 ・卒業生データ把握方法 の見直し	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・新方式での調査実施	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・効果検証、見直し	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・効果検証、見直し
	(7)地域との連携、 他大学との交流	a. 千代田区・柏市との連携による地域振興教育の実施 b. 千代田区・柏市以外の地域との連携・ 「まちおこし」の検討 c. 教育研究成果の公表・社会への還元 d. 生涯学習講座の充実、市民の受け入れ e. 他大学との交流活発化	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 江藤学部長 菅原学部長 谷口図書館長	総務・人事課 広報課 柏事務課 ◎学務課 図書館		本学学生・生徒にとっての「学び舎」として だけではなく、地域社会・地域住民にと つての知の拠点として、広く一般に公開さ れている学校となっている。 H29年度 柏市民の入館者数:2,014名 H29年度 生涯学習講座受講者増加率及 び人数:H24年度比+20%(受講者数97名)	・柏キャンパス施設の開放 (生涯学習講座等) ・大学コンソーシアム参加 ・図書館コンソーシアム 参加 ・千代田区内大学と千代 田区との環境連携会議 参加	・継続実施	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
4.大学院の 教育改革	(1)文学研究科の改革	a. 東アジア学術総合研究所との連携、日本漢文 学・中国学・国文学の日本における拠点として の地位向上 b. 教員・研究者の輩出	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 江藤研究科長 高山研究科長	◎教務課 学務課	専攻主任会議 研究科委員会	国内外への研究成果の情報発信を通じて 「国漢の二松舎」の伝統を保ち、専門性 の高い国語科教員、研究者が全国で活躍 している。	・新教職免許制度の導入 に向けた対応検討 ・各都道府県教育委員会 との連携強化 ・学部授業との連携強化 ・新カリキュラムの検討	・新カリキュラムの実施 ・効果検証、見直し ・その他	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
	(2)国際政治経済学 研究科の改革	a. 産学協同の推進 b. 専門的職業人の育成	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 菅原研究科長		専攻主任会議 研究科委員会	広い視野と実践的対応力を身に付けた、 国際的職業人を多数輩出している。	・開講科目の見直し ・学生募集ポリシーの 見直し検討	・学生募集対策の実施	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H29年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画					
						【2020 (H32) 年度の姿】 目標数値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
	(3) 教員養成の高度化に向けた対応	a. 新たな教員免許制度に備えた対応	◎ 渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 江藤研究科長 菅原研究科長			現職教員の履修に配慮した受け入れ体制や、高度専門職として位置付けられた教員養成に必要な教育課程が整備されている。	・検討会議の設置 ・教員養成のための大学院教育の課題、論点整理。	・新たな教員養成課程、プログラム等に係る具体案の検討。 ・指導体制の見直し、人材等の確保。	・新教員免許制度の導入に合わせた教育プログラム等の実施。	・新教員免許制度の導入に合わせた教育プログラム等の実施。	・新教員免許制度の導入に合わせた教育プログラム等の実施。	
	(4) 国際化への対応	a. 東アジア学術総合研究所と連携した海外大学等との国際交流の推進	◎ 渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 高山所長	学務課		海外大学等への本学関係者の派遣、海外研究者等の受け入れが活発に行われ、ダブルディグリー制度等が機能している。	・海外協定校拡充の検討 ・ダブルディグリー制度導入に向けた検討開始	・海外大学等との交流活性化策の検討、制定。	・国際交流活性化策の一部実施、ダブルディグリー制度導入に向けた学内体制の整備	・国際交流活性化策の一部実施。	・国際交流活性化策の一部実施	
5. 学生支援		a. 学生支援業務への全学的な理解の浸透	◎ 山崎学務局長 神河学務局次長	学生支援課		多様な学生に対する共通認識を基盤にして、学修支援や利用しやすい相談窓口、ラウンジ的な機能も担う、学生サービスの一元的担当組織として「学生支援センター」が設立され、教職協働に基づき、学生たちが安心して充実した学生生活が送れるような学生支援が行われている。	・学生支援業務の現状と課題についての洗い出しと共通認識醸成への着手	・講演会、研修会などによる学生支援についての共通認識醸成	・継続実施	・継続実施	・効果の検証	
		b. 学生支援センターの開設と運用	◎ 山崎学務局長 神河学務局次長				・他大学事例の本格的調査、検討	・基本構想の決定 ・規程整備など、開設に向けた学内準備	・学生支援センターの開設 ・学内連携の強化に向けた取り組み	・効果検証、見直し	・課題の洗い出しと対応策の検討	
		c. 学生支援スタッフの育成とピアサポート	◎ 山崎学務局長 神河学務局次長				・オープンキャンパス等におけるボランティア・スタッフの募集 ・インセンティブ型奨学金との連動の可能性を検討	・ボランティア・スタッフ等からピアサポートスタッフを選定 ・学生委員会を中心に支援システムを検討・構築(マニュアル作成などを含む)	・学生委員会、および学生スタッフが中心となり、学生支援センターに積極的に参加する。	・継続実施	・効果検証、見直し	
		d. 保健室運営の見直し	◎ 山崎学務局長 神河学務局次長				・保健室管理運営の見直し ・保健室認知度向上のための方策検討	・定期的な開室時間の実施 ・3号館の休養スペース確保	・定期的な開室時間の延長 ・保健室施設の拡充計画の検討(増床など)	・終日開室と職員常駐体制の準備 ・保健衛生教育の本格的展開	・終日開室と職員常駐体制の実施	
	(1) 総合的 学生支援策	e. 留学生支援	◎ 山崎副学長 渡邊理事 武永センター長 神河学務局次長	教務課 学生支援課 ◎ 国際交流センター		短期・長期留学生の増加、相互の国際的文化交流により、学生達の多角的な学習が発展している。  H29年度 私費外国人留学生数:65名	・協定校の見直しと増校の検討 ・留学生派遣受入体制(学習支援・生活支援)の見直し ・学習支援センターとの連携 ・認定留学制度の導入検討	・新規協定校候補の選定 ・留学生派遣受入派遣体制(学習支援・生活支援)の拡充 ・認定留学制度の規程整備	・新規協定校との協定締結(継続) ・認定留学制度の施行 ・留学生派遣受入体制(学習支援・生活支援)の点検、改善	・協定校間の相互交換留学プログラムの試験的展開	・協定校間の相互留学プログラムの安定化 ・効果の検証、見直し	
		f. 奨学金制度の拡充	◎ 山崎副学長 野田常任理事	◎ 学生支援課 企画・財務課			・経済的困窮や家計の急変に対する経済的支援が、給付型奨学金を中心に充実しているとともに、特待生、一定の資格獲得者、課外活動等の優秀者への奨学金も創設され、学生たちのインセンティブになっている。	・現行奨学金制度の体系確認、課題の洗い出し ・他大学の事例調査実施	・新奨学金制度の原案決定、規程等整備	・新奨学金制度の一部施行	・新奨学金制度の一部施行 ・効果検証、支給人数等の見直し	・効果検証、支給人数等の見直し
		g. 課外活動支援 ・全学的なサポート体制の構築 ・顧問制度の見直し ・施設設備の充実	◎ 山崎学務局長 神河学務局次長	学生支援課			九段・柏両キャンパスにおける、施設の充実が図られ、多くの学生がスポーツ・文化系の課外活動に参加している。  H29年度 課外活動加入率:40.0%	・九段校舎での課外活動拠点等の施設について検討開始 ・現行クラブ・サークル支援制度についての調査・見直し ・九段2号館3Fの利用状況調査	・課外活動調査に関する調査結果の分析 ・新支援制度の検討、導入準備 ・九段2号館3F改修案の検討	・学生の課外活動への支援策の実施 ・九段2号館3F改修案の決定、着工 ・九段・柏両キャンパスの学生施設全体計画の検討	・九段・柏両キャンパスの学生施設整備計画の決定、一部着工	・新支援制度の効果検証 ・学生施設整備計画の一部着工
		h. キャリア教育・就職支援	◎ 渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 田端センター長 神河学務局次長	教務課 ◎ 就職支援課			教務委員会 キャリアセンター 会議	学生が就業力を高められる就職支援体制を確立し、就職希望者の就職率が100%に近づいている。	・現状の基礎学力向上支援 ・キャリア教育支援の問題点の洗い出し。	・継続実施 ・キャリア教育支援の整備・強化	・他部署(学生支援センター等)との連携強化 ・学生ポートフォリオを活用した就職支援	・継続実施
① 入学時からの体系的キャリア教育	・実践的キャリア教育の検討	・実践的講座の増設、資格試験等の学内受験実施			・効果検証、見直し	・効果検証、見直し			・効果検証、見直し			
② 実践的キャリア教育	・学生の就職先企業の分析。 ・戦略的なターゲット企業の開拓。 ・銀行取引先ネットワークの活用	・継続実施 ・スタッフ増員の検討			・継続実施	・開拓企業への内定状況等検証			・継続実施			
③ 就職率向上につながる求人開拓	・実業界OB・OGのネットワーク化検討											

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H29年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
	(2) 学生ポータルサイト、学生ポータルサイトの活用	a. システムを利用した教員、学生間コミュニケーションの充実 b. 学習履歴、指導履歴の可視化・記録化 c. システムを介した仮想共同学習空間の創設 d. ポータルサイトを利用した情報周知の徹底、利便性の向上	◎吉崎副学長 田端センター長 森野センター長 神河学務局次長	◎教務課 学生支援課 就職支援課 情報センター	ポータルサイト導入小委員会	学生ポータルサイトを介した情報提供が円滑になされており、学生ポータルシステムの多様な機能を活用した学生の主体的な学びの体制が構築されている。	・学生ポータルサイト、ポータルシステムを活用した新しい学生指導の在り方に係るコンセンサスの形成。 ・学生ポータル、学生ポータルシステムの導入	・学生への周知、教員対象研修会の開催 ・学生、教員による試験運用開始(後期)	・本稼働 ・学生及び教員への使用支援	・システム運用の検証(前期) ・検証内容を踏まえた改善(後期)	・効果検証、見直し	
6. 入学者の確保、退学者等の減少	(1) 優秀な学生の確保	a. アドミッションポリシーに基づく入学試験の実施 b. 推薦入試入学者と一般入試入学者のバランス是正 c. 一般入試成績上位者の確保 d. 実質倍率の向上	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長		入試課	成績優秀者に対するインセンティブが確立し、これに伴い入学者の試験別比率が、一般入試入学者が過半数を占めるようになっている。 H29年度 一般入試入学者率:42.5% H29年度 志願者数増加率:H25年度比+14.4%(志願者数 文学部2235名、国際政治経済学部790名)	・ポリシーの再検証 ・指定校等の見直し ・成績上位者への奨学制度検討 ・偏差値と志願者分布調査	・公表 ・当該校への周知 ・新制度の公表	・新入試制度導入 ・新制度導入 ・新制度の導入	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・効果検証、見直し	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・効果検証、見直し	
	(2) 退学者等の減少	a. 退学者等の減少	◎山崎学務局長 神河学務局次長	学生支援課		総合的な学生支援策が奏功し、退学者、除籍者、休学者などが減少している。 H29年度 退学・除籍者数等:40名	・身分異動者の傾向分析 ・窓口対応改善策の検討 ・身分異動申請者の保護者	・継続的な分析と対応策の検討 ・改善案の策定と実行 ・保護者との連携方法の策定	・効果検証、改善案策定	・効果検証、改善案策定	・効果検証、改善案策定	
7. キャンパス整備	(1) 九段での教育研究環境整備、学生ホール等の整備	a. 九段地区で新校舎建設 b. 九段キャンパス既存校舎の改修	◎野田常任理事 渡辺学長	◎企画・財務課 総務・人事課	理事会 常任理事会 全学政策会議 キャンパス整備委員会	1号館～4号館の建物群で構成された「都市型キャンパス」として機能している。	・九段4号館用の建設計画検討 ・新規賃借物件の検討 ・課外活動等支援施設、制度の検討 ・学内LANの見直し着手。	・九段4号館竣工(秋) ・九段1～3号館改修検討、着工	・九段4号館本格稼働開始 ・別館賃借解消	・利用状況調査、改善	・利用状況調査、改善	
	(2) 柏キャンパスの整備・活用	a. 大学九段集約後の利用計画検討 b. 全天候型グラウンドへの改修 c. 生涯学習等で活用	◎野田常任理事 渡辺学長			大学・両附属高校・中学校の連携・協力によって、施設が効率的に活用されている。	・柏キャンパスでの新学部設置・運営に係る調査開始	・柏キャンパス再利用計画の策定 ・一部整備・補習の着工				
IV. 附属高校の教育改革												
1. 教育改革	(1) 附属高の「ビジョン」の浸透	a. 附属高の「ビジョン」の学内外への浸透策の検討・実施 b. ビジョンに基づく生徒育成策の検討・実施	松葉校長	高校事務室	主任会議	論語・漢文を通した全人教育を行うことにより、ビジョンを内外に浸透させる。 H29年度 漢文検定合格者:250名	・漢文検定において、1学年100名の合格を目標とする。	・漢文検定において、1学年・2学年合わせて200名の合格を目標とする。	・漢文検定において、全学年300名の合格を目標とする。	検証・見直し	制度確立	
	(2) 「人間(ひと)作り」、人格教育	a. 精神的支柱確立・生きる力育成のための『論語』教育実施 b. 問題解決力・困難に前向きに取り組む力育成 c. 東洋の精神に基づき人格を陶冶、豊かな人間性、社会に貢献できる青少年育成	松葉校長	高校事務室	国語科(論語担当者) 総務部 生活部	「人間(ひと)作り」のための行事等を強化し、生徒の精神力を育む。	・伝統行事の検討 ・「東京マラソンのボランティア活動」等参加を検討	・調整・試行	・検証・見直し	・検証・見直し	・伝統行事の完成 ・ボランティア活動の定着	
	(3) 愛校心の育成	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時の教えを教授 c. 有名な本学関係者・卒業生の功績等を教授	◎松葉校長 五十嵐常任理事	高校事務室	生活部 校内松友会	学校の教育活動全体を通して仲間意識を醸成し、一体感を育て帰属意識や学校への愛校心が育成されている。	a,b 二松学舎を生徒に理解させるためのビデオ(1時間程度)制作に入る。 c 二松だよりに本学に関係のある著名人の紹介コラムを掲載。 d-1 授業の改善・工夫の実践 d-2 部活動を奨励、活発化の中で帰属意識を高める。 d-3 三年計画で甲子園出場を目指し、生徒全体で応援。体育特待生の増加、野球部合宿所の建替え等の検討	a,b-1 学年オリエンテーションでビデオを使用して理解させる。 c コラムを掲載開始。年2回(夏期、冬期)に卒業生を紹介する。 d-1 授業の改善・工夫の実践 d-2 他のクラブ活動を活発にして愛校心を育てる。合宿所の拡大・充実(勉強・クラブ活動合宿に活用)成果を上げる。 d-3 甲子園出場の実現 d-3 平成30年の創立70周年に向けて甲子園出場3ヵ年計画の再構築	・継続実施 ・3ヵ年計画の1年目	・継続実施 ・3ヵ年計画の2年目		
	(4) 国際化への対応	a. 外国語(英語・中国語・韓国語)教育の強化 b. 交換留学制度の検討	◎松葉校長 小町理事	総務・人事課 ◎高校事務室	英語科 教務部	実力テスト等の導入や交換留学制度の確立により、国際化に対応できる人材を育む。	・英語実力テスト(GTEC等)導入を検討 ・中国語、韓国語対策として二松学舎大学教授による講演会・講師派遣の実施を検討 ・交換留学制度の導入を検討	・GTEC等の実施 ・講演会実施 ・交換留学制度の検討	・GTEC等の効果検証、見直し ・講演会の効果検証、見直し ・交換留学制度施行(予定)	・効果検証、見直し	・各制度の確立	

N'2020Plan の 課題			アクションプラン(H29年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
	(5) 地域・社会との連携	a. 保護者・OB・地域住民・地域企業との連携、学校の活性化推進	松葉校長	高校事務室	図書部 学校評価委員会	学校評価委員会の活用、町内行事への参加により、地域との連携体制を維持している。	・学校評価委員会の実施 ・町内行事への教職員生徒の参加	・継続実施	・継続実施	・継続実施	・継続実施	・継続実施
	(6) 教育の実践・充実	a. 学力の向上 b. 難関大学への合格者増 c. 教員の組織的なFD活動実施の検討 d. 教員の教科指導力の向上	◎松葉校長 千葉理事	高校事務室	教務部 進路指導部 教科主任会議	難関大学への合格者を毎年度輩出する。(当面は、GMARCH 30名、日東駒専100名合格を目標とする。)このために、教員の教科指導力を強化するための研修制度が確立されている。 H29年度 特進クラス難関大学(GMARCH)合格率:80.0% H29年度 一般クラス中堅私大(日東駒専)合格率:60.0%	・各種講習等を有機的に実施する等の体制を確立する。 ・学内でのオープンな研究授業を実施 ・初任者研修の徹底	・試行、検証 ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し	・本格実施 ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し	・効果検証、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し	・実施方法確立 ・目標達成 ・研修制度確立	
	(7) 入学者の確保、退学者等の減少	a. 生徒募集力の強化 b. 退学者等の減少	松葉校長	高校事務室	入試企画部 入試委員会	進学実績の向上により生徒募集力が高まっている。また、在学中の生徒満足度も向上し、退学者数が減少している。 H29年度 入学定員充足率:100% H29年度 退学率0.5%	・中学校、塾訪問の強化による新規開拓(受験者数の増加を図る) ・ネット・画像など様々なツールを活用した広報活動を展開する。 ・説明会・相談会等を精査し、受験者の増加に直接結び付ける ・成績不振者への補習の実施 ・各担任による二者面談の実施 ・クラス編成のあり方を検討 ・真の学力を付けるため定期考査の改善・検討及び評定のあり方検討	・検証・見直し ・成績不振者への対策授業を各学年で年間で取り組む。 ・各担任による二者面談の強化 ・習熟度別クラス編成の実施 ・定期考査、評定改善の実施 ・募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す	・検証・見直し ・成績不振者への対策授業を各学年で年間で取り組む。 ・各担任による二者面談の強化 ・募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す ・生徒の満足度向上の対策を検討	・検証・見直し ・成績不振者への対策授業を各学年で年間で取り組む。 ・各担任による二者面談の強化 ・募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す ・生徒の満足度向上の対策を検討	・検証・見直し ・成績不振者への対策授業を各学年で年間で取り組む。 ・各担任による二者面談の強化 ・募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す ・生徒の満足度向上の対策を検討	
2. 生徒支援	(1) 生徒支援	a. 入学から卒業までの生徒支援体制の整備 b. 父母の会・同窓会との連携強化、意見を学校運営に反映 c. 奨学金制度の充実	松葉校長	高校事務室	主任会議	・特待生制度の拡充等により生徒を支援する。	・特待生、体育特待生の対象人数拡充について検討	・規程改正等整備	・試行	・効果検証、見直し	・制度確立	
3. キャンパス整備	(1) 附属高校の施設設備整備	a. 現在地で将来の校舎建替を検討 b. 柏を運動施設として活用	◎野田常任理事 松葉校長	総務・人事課 ◎企画・財務課 ◎高校事務室	体育科 生活部	九段校舎の設備を充実させつつ、柏の体育施設を有効活用している。	・柏グラウンドの整備実施 ・柏での体育集中授業の試行	・継続実施、見直し	・継続実施、見直し	・継続実施、見直し	・柏活用体制の確立	
<b>V. 附属柏中学校・高校の教育改革</b>												
<b>1. 教育改革</b>												
	(1) 附属柏中高の「ビジョン」の浸透	a. 附属柏中高の「ビジョン」の学内外への浸透策の検討・実施 b. ビジョンに基づく生徒育成策の検討・実施	木村校長	高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 広報部会 教務部会	ホームページ、広報用パンフレット、校内研修等が充実し、校内外のステークホルダーに本校のビジョンが浸透している。	・職員に対する研修の実施 ・ホームページ上への掲載内容検討 ・初任者に対する研修の早期実施の検討	・ホームページ上への掲載 ・継続実施	・研修内容の検証、改善	・継続実施	・研修内容の検証、改善	
	(2) 「人間(ひと)作り」、人格教育	a. 精神的支柱確立・生きる力育成のための『論語』教育実施 b. 問題解決力・困難に前向きに取り組む力育成 c. 東洋の精神に基づき人格を陶冶、豊かな人間性、社会に貢献できる青少年育成	木村校長	高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 教務部会 国語科会議 学年会議 生徒部会	東洋の精神に基づき、相対的な価値観を求める観点から多様な思想を学び、大きな視野にたつて物事を考えられる生徒を輩出している。	・『論語』の教員研修の企画・立案 ・論語検定の実施 ・中・高の部活動、委員会活動の整備、充実	・実施 ・中高合同行事の企画、立案	・効果検証、改善 ・合同行事の実施	・継続実施 ・継続実施	・研修内容の検証、改善 ・継続実施	
	(3) 愛校心の育成	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時の教えを教授 c. 有名な本学関係者・卒業生の功績等を教授	◎木村校長 五十嵐常任理事	高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 広報部会 教務部会 中学校会議	今日の国際社会に生きる生徒たちが、世界的な視野にたつた三島中洲師の思想に価値観を見出し、それを受け継ごうとしている。	・校長講話の継続実施、検証 ・校歌の配布、広報誌の活用 ・『都市の教室』本部訪問	・継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証	
	(4) 国際化への対応	a. 外国語(英語・中国語・韓国語)教育の強化 ・ネイティブ(英語・中国語・韓国語)教員の確保 ・英語圏への短期研修の実施	◎木村校長 小町理事	総務・人事課 ◎高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 教務部会	オーストラリア等の英語圏及び中国への研修などが実施され、国際交流が充実している。	・内容の検証、選任 ・オーストラリア語学研修の実施検討	・中学生向け中・韓語学補修の検討 ・中3、高1オーストラリア語学研修の実施	・中学生向け中・韓語学補修の実施 ・中学3年特選オーストラリア語学研修実施	・継続実施 ・継続実施	・継続実施 ・継続実施	

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H29年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
2. 生徒支援	(5) 地域・社会との連携	a. 保護者・OB・地域住民・地域企業との連携、学校の活性化推進 ・補習授業、夏季勉強会におけるサポーター(卒業生等)の活用	木村校長	高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 生徒部会 教務部会 中学校会議	柏市、地域住民、企業などとの新しい連携、交流が深まり、地域における存在感が増している。	・夏季勉強合宿への大学生参加に向けた検討 ・近隣等の清掃活動継続実施 ・『田んぼの教室』の実施(中学校)	・夏季勉強合宿への現役大学生の参加実施 ・継続実施 ・継続実施	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施
	(6) 教育の実践・充実	a. 学力の向上 ・学年、教科間での情報の共有と連携の強化 ・教員研修の実施 ・中高一貫カリキュラムの検証、確認 b. 難関大学への合格者増 ・中高におけるFD推進による教科指導力の強化	◎木村校長 千葉理事	高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 進路部会 教務部会 中学校会議 高等学校会議 学年会議 各教科会議	スーパー特選クラス、特選クラスをはじめとして、進学校としてより充実した教育が実践されている。教員の質が更に向上し、実践的な授業が展開されている。具体的には、スーパー特選は難関国公立大学(特に理系)及び私立大学への現役合格率50%、特選は難関私立大学への現役合格率100%という目標に近づいてきている。  H29年度 国公立、早慶上理、GMARCH合格者数:70名	・中学特選、高校S特選スタート ・連携強化に向けた検討開始 ・語学力の強化、充実に向けた指導法等の再検討 ・学習クラブの体制再構築 ・高校スタディサポート導入 ・難関大学問題研究会の実施 ・FD実施案の検討、策定 ・特定教科の強化充実策の検証、策定 ・センター試験得点力の向上実施案の検討、策定	・効果検証、継続実施 ・新体制の構築 ・実施 ・実施 ・効果検証 ・継続実施 ・実施 ・実施	・継続実施 ・実施 ・継続実施 ・継続実施 ・効果検証 ・効果検証、継続実施 ・継続実施 ・効果検証、継続実施	・S特、特選カリキュラムの検証 ・効果検証 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・効果検証、継続実施 ・継続実施 ・効果検証、継続実施	・継続実施 ・実施 ・継続実施 ・継続実施 ・効果検証 ・効果検証、継続実施 ・継続実施 ・効果検証、継続実施
	(7) 入学者の確保、退学者等の減少	a. 生徒募集力の強化 b. 退学者等の減少	木村校長	高校事務室	校長室会議 執行会議等	進学実績の向上により生徒募集力が高まっている。また、在学中の生徒満足度も向上し、退学者数が減少している。	・高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ・教室確保と配置の検討 ・ベネッセスタディーサポート実施とファイナンスシステムの導入活用	・高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ・教室確保と配置の検討 ・継続、効果検証、改善	・高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ・教室確保と配置の検討 ・継続、効果検証、改善	・高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ・教室確保と配置の検討 ・継続、効果検証、改善	・高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ・教室確保と配置の検討 ・継続、効果検証、改善
	(8) 規模拡大	a. 附属柏高校の規模拡大 ・臨時定員増を活用した規模拡大 b. 附属柏中学で入試難易度を下げずに規模拡大 ・進路実績の向上	木村校長	総務・人事課 企画・財務課 ◎高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 中学校会議 高等学校会議	中学校において定員充足率が100%を超え、徐々に拡大している。 H29年度 高校定員充足率:116.0% H29年度 中学校定員充足率:100.0%	・継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証
3. キャンパス整備	(1) 附属柏中高の施設設備整備	a. 自然環境を生かした整備	◎野田常任理事 木村校長	◎企画・財務課 高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 中学校会議 高等学校会議	ビオトープなどの設置が進み、より充実した教育環境が整備されている。	・ビオトープの設置について行政と協議、検討 ・敷地内樹木の名札設置 ・自然観察の実施	・学内調整等 ・継続実施 ・継続実施	・具体案の策定 ・継続実施 ・継続実施	・設置 ・継続実施 ・継続実施	・効果検証 ・継続実施 ・継続実施
VI. 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他											
1. 長期ビジョンの推進	(1) N'2020Planの推進とそのため情報の共有化	a. N'2020Planを学生生徒・父母・OB・教職員等へ伝授、共有化	◎野田常任理事 五十嵐常任理事	広報課 ◎企画・財務課	アクションプラン推進管理委員会	長期ビジョンの精神が学内外関係者に理解・共有され、諸改革への積極的な支援・協力体制が整っている。	・教職員、父母会、同窓会等への進捗状況説明、各種媒体での情報提供 ・アクションプランの「年次報告書」の作成・配布	・適宜検証・見直し	・適宜検証・見直し	・適宜検証・見直し	・適宜検証・見直し
2. 財務	(1) 学生生徒等納付金の増収	a. 戦略的授業料体系の検討	◎野田常任理事 渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 松葉校長 木村校長	◎企画・財務課 ◎学務課	理事会 常任理事会 全学政策会議 教授会等	都市型大学として、多様化する学生ニーズに即応できるための財政基盤が築かれている。 H29年度 学納金増収額:156,000千円	・大学・中高の学費体系の点検 ・他校の学費調査 ・柏高校の学費改定	・保護者に対する学納金支出内訳の明示を検討 ・両附属高校の学費改定 ・大学の学費改定の検討	・両附属高校の学費改定 ・大学の学費改定実施	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
		b. 学生確保のための奨学金支給拡充	◎野田常任理事 渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 松葉校長 木村校長		理事会 常任理事会 予算編成会議 全学政策会議 教授会等	給付型奨学金支給人数拡充に向け、計画的な基金の積み増しが行われている。 H29年度 第3号基本金積増額:550,000千円 H29年度 奨学金受給者数:51名 H29年度 奨学金支出額:54,038千円	・全学的な現行奨学金制度の体系確認、課題の洗い出し。	・奨学金支給増に向けた規程等整備 ・第3号基本金の計画的積み増し着手	・奨学金支給人数の一部拡充開始	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H29年度まで)																	
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画													
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度									
(2)他の収入の恒常化	a. 競争的補助金の積極的確保	◎野田常任理事 渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長	◎企画・財務課 ◎学務課	全学政策会議 部局長会議	科研費等の申請が増加し、専任教員の4割が公的資金を活用している。経常費等補助金(特別補助)については、獲得目標件数を定め、獲得率80%を目標とする。	・科研費申請促進対策の検討実施 ・「構想型補助金」(大学)獲得に向けての体制整備 ・特別補助申請項目の点検、受給目標項目の設定	・特別補助受給目標80%達成	・特別補助受給目標100%達成	・新受給目標の設定	・新受給目標80%達成										
											b. 寄付金の戦略的な確保	野田常任理事	◎企画・財務課 総務・人事課	教育研究振興 資金管理運営 委員会	ステークホルダー毎に内容を変更した寄付募集案内等を送付し、寄付者の寄付意欲向上に繋がる募集活動を展開。寄付率(寄付件数/DM発送件数)10%を目標とする。  H29年度 寄付率(寄付件数/DM発送件数):8.0% H29年度 寄付金額:80,000千円	・カテゴリ別募集案内導入の検討 ・領収書発行業務のアウトソーシングによる迅速化検討 ・全教職員対象寄付徴収方法の検討	・領収書発行業務のアウトソーシング導入 ・カテゴリ別募集案内の導入 ・インターネット寄付金サイトの見直し	・創立140周年記念募金募集準備 ・寄付率3%の達成	・創立140周年記念募金募集開始 ・寄付率5%達成	・創立140周年記念募金募集 ・寄付率6%達成
	二松学舎外部からの売上があり、地域や教育研究関係に貢献する会社となっている。	・他大学出資事業会社との情報交換、ネットワーク構築 ・施設貸出に係る営業の強化策検討	・他大学出資事業会社との情報交換、ネットワーク構築・維持 ・施設貸出営業の強化策実施	・他大学出資事業会社との情報交換、ネットワーク維持・強化 ・他大学出資事業会社との共同連携事業着手	・他大学出資事業会社との情報交換、ネットワーク発展・強化 ・他大学出資事業会社との共同連携事業発展	・効果検証、見直し														
	収益を継続的に確保する安定した会社運営がなされている。	・学内サポート体制の確立(二松学舎内関係部署との連絡会定期開催、取締役会の活性化)																		
	平成24年9月決算比:売上高は2.5倍(約8億円)、利益は2倍(売上総利益約1億円)となっている。  H29年度 売上高:600百万円 H29年度 売上総利益:80百万円	・二松学舎サービス経営5カ年計画(仮称)作成	・5カ年計画順次実施	・継続実施	・5カ年計画の検証、見直しに着手	・5カ年計画の総括														
	(3)人件費比率の抑制	a. 人件費比率の適正化	◎野田常任理事 小町理事	◎企画・財務課 ◎総務・人事課 教務課	予算編成会議	法人全体で退職金を除く人件費比率が50%程度で推移しており、特に大学非常勤教員数がH27年度より3割程度削減されている。	・人件費比率上昇の要因の分析(適正な開講科目数・専任教員基準持ちコマ数の検討)	・適正な開講科目数の検討 ・教員の担当コマ数の見直し	・カリキュラム改正による、非常勤教員の削減	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し									
						(4)経営の合理化 進展、効率的な 財政運営、健全な 財務体質の 維持	a. コスト意識の浸透、経費管理の徹底・無駄の排除、経営の合理化	◎野田常任理事 小町理事	経理課	予算編成会議	部署別予算制度導入による事業計画と経費管理が実現している。	・導入方法検討 ・規程整備 ・試算による仮導入	・各部署への説明実施 ・部署別予算導入							
	b. 経費節減	◎野田常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎柏事務課	部課長会議等	経費節減の精神が学内構成員に浸透し、無駄のない職場になっている。  H26年度 柏キャンパス年間施設管理業務委託料:H25年度比-20%						・経費節減のための項目の洗い出し、目標設定とその実施	・検証、継続実施	・検証、継続実施	・検証、継続実施						

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H29年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
3. 教職員の育成	(1) 教職員人材の育成	a. 「教職協働」の考え方定着化	◎五十嵐常任理事 小町理事	総務・人事課	全学政策会議 部局長会議 相互会代表者 会議	課題解決に向け、教員と職員が議論する環境が整い、それぞれの立場を尊重し目標実現に向け前進する風土が確立している。	・教員と事務職員の交流機会を設け、コミュニケーション強化を図り相互信頼関係を醸成する交流機会の企画・立案 ・教職協働の意義の強調 ・教職員への研修実施、教職協働の考え方浸透	・継続実施	・継続実施	・効果検証、見直し	・継続実施	
		b. 教員の組織的なFD活動実施の検討 (授業公開、授業アンケート結果の分析応用、アクティブラーニング、PBL授業の導入等)	◎吉崎副学長 千葉理事	学務課	自己点検評価 運営委員会	FD活動が定着し、実質的に機能している。	・他大学・本学FD状況調査 ・アンケート実施	・FDの実施内容検討・提案 ・一部実施	・FD活動内容の再検討 ・一部実施	・一部実施	・一部実施	
		c. 事務職員に対するSD活動 (事務処理能力・企画立案能力向上)	◎小町理事 千葉理事	総務・人事課	部課長会議	計画的なSDが実施され、職員個々の事務処理能力が向上し、業務効率がアップしている。全体的に企画立案能力が向上し、業務改善・改革が進んでいる。	・SD検討委員会を設置 ・SDの理念、方針策定(職員の能力・専門性の向上、戦略的人材育成) ・研修計画策定 ・指名研修制度の検討	・研修規程整備 ・研修費補助制度・褒賞制度の検討 ・制度に基づいた研修実施	・順次着手	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	
4. 人事・評価制度、能力開発・研修制度	(1) 教職員の定員管理	a. 教職員の定員管理	◎五十嵐常任理事 渡辺学長 小町理事	◎総務・人事課 ◎学務課	人事計画 検討会議	定年退職者の補充、新規採用にあたっては年齢構成を考慮し、計画的に採用されている。	・定年退職者を考慮した、2020年までの採用計画策定 ・各学校の専任教職員の定員の再確認 ・非常勤教員の適正数、任期付教員等の検討	・採用計画により採用	・人事計画の推進	・人事計画の推進	・人事計画の推進	
		b. 年齢構成の適正化による平均年齢の上昇抑制										
	(2) 教職員の積極性を引き出す評価制度	a. 評価制度の見直し	◎小町理事 野田常任理事 五十嵐常任理事	総務・人事課	人事制度 検討委員会	現行の評価制度が見直され、良好な状態で機能している。	・人事制度検討委員会の下に職員・大学教員・附属中高教員の各検討部会を設置。 ・現行制度の問題点洗い出し ・評価制度の方向性を決定 ・アクションプラン重点課題の達成度合いを評価項目に含める。	・評価基準等策定 ・評価規程改正	・新評価制度で評価実施(評価者研修)	・検証、見直し	・検証、見直し	
		(3) 働き甲斐ある職場の実現	a. 給与制度改革				給与制度改革や各種の施策が効果を奏し、待遇改善が図られている。	・各俸給表の見直し、非常勤講師手当の見直し、諸手当の見直し、昇給基準の見直し検討	・俸給表改正の一部実施 ・非常勤講師手当改正実施	・諸手当改正実施		
			b. 福利厚生充実	◎小町理事 五十嵐常任理事	総務・人事課	人事制度 検討委員会	教職員のモチベーションを高めるため、福利厚生の充実が図られている。	・福利厚生検討 ・ヘルスサポート ・教職員談話室設置 他	・退職復帰ルール作成、実施 ・職員面談継続実施 ・新報奨制度実施	・その他福利厚生検討	・その他福利厚生検討	・その他福利厚生検討
	c. 報奨制度の検討					永年勤続表彰の他、新たな報奨制度を実施する。	・報奨制度の調査・検討	・新報奨制度実施				
5. 組織・権限	(1) ガバナンスの強化	a. 理事会機能の強化	◎五十嵐常任理事 渡辺学長 野田常任理事	総務・人事課	理事会	理事会は、学内外情勢を把握し、学内の意見を反映し、担当理事制が十全に機能。長期ビジョン達成に向けた確な決定を行い、理事会意思を学内へ示す経営体制になっている。	・理事構成の再検討(各理事機能の充実・強化) ・アクションプラン課題毎の担当理事任命、担当理事制開始	・各担当理事の機能を強化・充実	・各担当理事の機能を強化・充実	・各担当理事の機能を強化・充実	・各担当理事の機能を強化・充実	
		b. 教学ガバナンスの強化	◎渡辺学長 五十嵐常任理事	◎総務・人事課 ◎学務課		理事会機能強化のため、学長をトップとする教学関係理事が担当分野について、十全に理事機能を発揮している。						

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H29年度まで)										
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画						
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度		
	(2)意思決定の迅速化	a. 意思決定の迅速化	◎五十嵐常任理事 渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長 小町理事	総務・人事課	全学政策会議	権限と責任の委譲が適正に行われており、 意志決定の迅速化が図られている。	・全学政策会議の規程化 の検討 ・学部長権限の規程化の 検討	・全学政策会議の規程化 の実施 ・学部長権限の規程化の 実施					
		b. 権限の明確化	◎渡辺学長 吉崎副学長 山崎副学長	学務課	大学協議会 部局長会議 教授会	大学協議会、教授会の役割分担、学内会 議の整理統合が行われ、意思決定の迅速 化が図られている。	・大学協議会、教授会の 役割分担の検討 ・各種会議、会議内容、 参加人数等の洗い出し	・審議内容・機関の見直し ・会議数・参加人数等の 整理	・関連規程・内規の検討・ 整備				
		c. 大学事務組織の一元化	小町理事	総務・人事課		事務組織が再編され、教育研究支援に有 効に機能している。	・事務組織再編の基本 方針・計画を検討する。	・規程整備等を行い、新組 織に段階的に移行する。					
		d. 業務の抜本的見直し	小町理事	総務・人事課	部課長会議	業務を分析・整理したマニュアルに基づ き、効率的に業務処理が行われている。	・業務アンケート作成・ 実施	・アンケート分析 ・重複業務整理 ・業務上の問題点抽出	・マニュアル作成	・効率的な組織の構築に 反映 ・適正な人員配置に反映			
6. 広報	(1)戦略的広報体制 の確立・展開	a. 本学のブランド構築・向上、認知度向上	◎小町理事 野田常任理事	広報課	広報運営 委員会	時代に即した適切な広報が展開され、ブラン ド・イメージ、認知度が向上している。	・ブランド調査による二松 学舎の強みと弱点の 具体的な把握 ・時代に即した有効な 広報戦略の検討、実施	・定期的な調査による広報 活動の効果測定と、より 戦略的、効果的な広報 活動の展開	・140周年広報計画の 企画・立案。	・140周年広報の実施。			
		b. 学内情報の集約化体制整備	◎小町理事 野田常任理事				学内情報が速やかに広報担当部署に集ま る体制が整っている。	・ガールーンに情報提供の ための掲示板設置 ・速やかな情報提供実現 に向けた、諸策の検討	・学内情報の集約化体制 の確立				
		c. 学内情報の学外への効果的な発信	◎小町理事 野田常任理事 仲摩理事	広報課	広報運営 委員会	法人・大学・附属校による、学校法人として 統一感のある広報活動が展開されている。	・各部署との定期的な 情報交換による、統一 感のある広報展開の 検討 ・Facebook のオフィシャル ページによる情報 発信体制の確立と 一部実施 ・学生を活用した広報 の検討	・統一感のある広報展開 ・Facebook のオフィシャル ページによる情報 発信の実施 ・学生を活用した広報 の実施					
		d. 広報運営委員会の在り方等再検討	小町理事				新たな広報戦略会議による、戦略的、効果 的な広報が展開されている。	・戦略的、効果的な広報 の検討を行う新体制の 検討(上半期) ・新たな広報戦略会議に よる広報活動の検討・ 実施(下半期)	・新たな広報戦略会議に よる戦略的、効果的な 広報活動の検討・実施。				
(2)情報公開	a. 経営情報・教育情報の積極的公開	◎小町理事 野田常任理事			HPの「情報公開」ページを通じた情報提 供を積極的に行う。外部理事・評議員等 を構成員としたモニター制度を整備し、提 言をHPの改訂に生かす。	・モニター制度の設置 検討	・モニター制度の実施						
	7. その他	(1)外部評価機関 の活用	a. R&Iの格付取得の継続、格付結果の教育・ 経営への活用	野田常任理事	企画・財務課	全学政策会議	財務体質の改善、規模拡大等を通じて格 付評価を「A」に向上させる。 H29年度 格付評価:「A」(ポジティブ)	・R&I格付け見直しの 実施 ・評価事項の学内説明会 実施(部課長会議等)	・効果測定、格付け見直し 実施	・効果測定、格付け見直し 実施	・効果測定、格付け見直し 実施	・効果測定、格付け見直し 実施	
		b. 大学基準協会、その他認証評価結果の活用	吉崎副学長	学務課	部局長会議 自己点検評価 運営委員会	認証評価結果を活用して教育研究体制の 改善がなされている。	・認証評価の実施	・認証評価での課題改善	・認証評価での課題改善	・認証評価での課題改善	・認証評価での課題改善	・認証評価での課題改善	
	(2)施設の適切な 管理	a. 校舎等の長寿命化、長期修繕計画の策定	◎野田常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎企画・財務課	キャンパス 整備委員会	各校舎の長期修繕計画が策定され、それ に基づいた修繕が行われ良好に管理され ている。	・現況の現地調査 ・長期修繕計画策定 (建物診断⇒修繕項目 リスト、概略費用算定)	・予算計上	・長期修繕計画による 修繕実施				
	(3)危機管理と 防災対策	a. 危機管理と防災対策	◎小町理事 仲摩理事	総務・人事課	防災対策会議	大震災等に対する防災対策が整備され、 教職員・学生・生徒にとって安全な教育環 境が整備されている。	・防災対策の強化 ・防災管理規程の改正 ・危機管理規程の制定	・危機管理対策の強化					